



図99 空から見た遺跡周辺 中央、越王遺跡  
右、菖蒲塚古墳 左、南赤坂遺跡



図98 遺跡の位置  
5万分1地形図「弥彦」

越王遺跡 西蒲区竹野町

越王遺跡は角田山東麓に張り出した台地の一面に位置する古墳時代の遺跡である。現在はカキ畑になっている。

遺跡は、昭和五十三（一九七八）年に新潟県教育委員会が行った分布調査で発見されたが、発掘調査は実施されていない。これまで一六〇点ほどの管玉の製作工程遺物が採集され、玉造り遺跡として知られている。遺跡の詳細な範囲は不明であるが、標高三〇メートルほどの平坦面に立地する概して小規模な遺跡のようである。

越王遺跡で採集された遺物の中心は、緑色凝灰岩を石材とする玉（管玉）造りの資料である。土器は極めて少なく、時期の判断としない微細な破片が少量あるに過ぎない。玉造りの資料の大半は、石を打ち割る過程で生じた石の破片である。中には角柱状の石材や、これに細かい加工を加えたものもある。管玉を磨いたのちに、穴を開ける工程の資料も少量ながら見つかっており、この遺跡が管玉の完成までの一連の作業が行われた工房跡であること



図100 越王遺跡

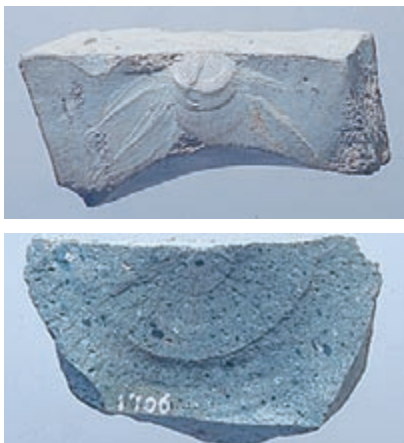


図101 管玉製作工程の石片 上、越王遺跡 下、南赤坂遺跡 ともに幅2.9センチメートル 越王遺跡の石材は、南赤坂遺跡に比べきめが細かい

を示している。

越王遺跡の玉造りの特徴は、石を打ち割った際の衝撃点がきわめて小さく、これを中心に半円形のリングが巡ることである（図一〇一）。よく似た例は、越王遺跡の西約五〇〇メートルにある古墳時代前期の南赤坂遺跡（五八ページ）で見つかっている。こうした特徴は、この時期特有であり、先の尖った金属とがを打点に据えたためと考えられる。越王遺跡と南赤坂遺跡とで

は石材の大きさも類似している。しかし、二つの遺跡は至近距離にありながら、管玉の石材である緑色凝灰岩の石質が大きく異なっている。越王遺跡

に土器が極端に少ない理由や、二つの遺跡の関係を明らかにすることが今後の課題である。